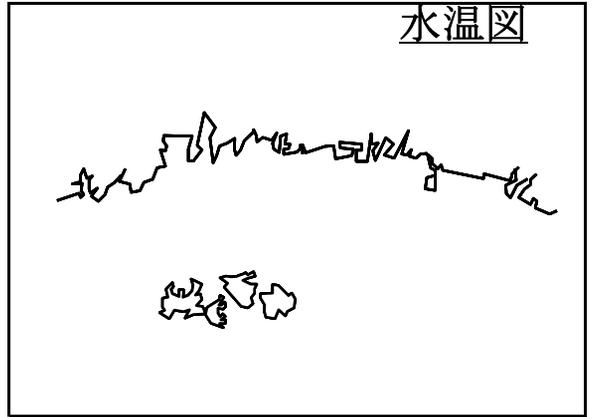


兵庫県のり漁場環境情報 (西播海域 12号)

2021年 1月27日発行
兵庫県研究

陸水等の影響が見られた地先の一部漁場において、窒素は上昇していました。沖合漁場において、珪藻の発生量は全般に前回(1/18)調査と比較し大きな変化は認められませんが、窒素は坊勢地区で1 $\mu\text{g-at/L}$ 台、家島地区で1 $\mu\text{g-at/L}$ 以下の値となっています。

(栄養塩、珪藻) この海域全般に肉眼視サイズの珪藻(コシノディスカスや筒状連鎖型のもの)は減少しているが、小型のキートセロスやスケルトネマが増加しており、地先漁場では多い状況。ユーカンピアは地先で海水1mlあたり100細胞前後と増加傾向にあり、沖合では20細胞までと大幅な増加は見られない。沖合の坊勢地区はこれら珪藻はわずかに確認される程度と少なく、窒素は1 $\mu\text{g-at/L}$ 台であったが、家島地区は東部(カジ・加島東)や地先に面した漁場(青井)で珪藻がやや多く窒素は低い値を示した。



		前回は	今回は	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.3	1.3	1.8	1.0
	リン	0.32	0.28	0.28	0.41
家島・坊勢	窒素	0.9	1.0	2.7	2.2
	リン	0.44	0.42	0.45	0.54

(1/18) ※地先平均は赤穂漁場除く (1/29)

栄養塩 (窒素) 図

2021年 1月27日調査

